



目次

試し読み	1
------	---

試し読み

【祭りではそ者を狂い乱す男たち】

地元の年に一回の祭りには、大学を休んでも必ず参加。
人手不足とありよそ者の顔もちらほら、若いのが多くて豊作豊作。

なかでも目をつけたのは、全国の古い祭りを調査しているという高校生。
文系おたくのようでラグビー部らしく、法被から覗くむっちりとした小麦色の胸が最高。

よそ者ながら法被姿がさまになっているものを、どうも彼は困った顔をしてそわそわ。
ぴんときて、声を潜め「これ貼っても目立たないよ」と丸い絆創膏をわたせば「あ、ありがとう、ございます・・・」と目を伏せて頬を染めて、かわいらしいこと。

絆創膏をきっかけに、なにかと彼の世話を焼き、祭りのどさくさに紛れて密着したり触ったり。
打ち上げのころには、すっかり懷いて「今日は神様を交えての無礼講なんですよ、だったらばくもお酒をー」と俺の掲げる酒瓶をとろうと、甘えるように抱きついて。

「警察は許してくれない」と酒瓶を遠くに置き「でも、こっちはいいよ？」と固くなったのを股間に食いこませる。

びくりとしつつ「あ、ああ・・・か、神様に、怒られない？」と自ら擦りつけ「怒られてもしたい、外で」と囁けば、頬擦りして首肯。

祭りの明かりが、わずかに届く森のなか、木に彼の背中を押しつけ、荒い息を切らしながら腰を揺する。

両手で二人のをにぎって扱き、涎を垂らして震えるさまがいじらしくて、勢いよく絆創膏を剥がせば、つやつやぷるぷるのそれ。

「女より固くて揉みにくいな？」と嘲って囁き、彼が泣くのを見てから「でも、乳首は女よりエッチ」と指で弾く。

「ここも鍛えているの？ 男にこうして触られたくて？」と弾きまくれば「ち、ちがあ・・・！ シゲル、さんがあ、初めてえ、あ、やあ、あああう！」と盛大に射精。

顔まで散ったのを舐めて、胸を吸いながら扱きながら尻の奥へと指を飲ませてぶちゅぶちゅ。

すぐに「やあ、そんなあ、吸っちゃあ、ひいいん！」と再射精してぐったりするのを、木にしがみつかせて尻を突き上げさせる。

一気に貫き、息つかせぬ間もなく腰の強打を畳みかけ、指で乳首をいじめまくり。

「ふああ、お、俺、彼女、いるのに！」と泣きじゃくりつつ、俺の息子を貪るようにしゃぶしゃぶあんあん。

「か、神様あ、怒っちゃあ！ ああ、ああ、ごめん、なしゃああ！ シゲ、シゲルさあ、もっと、おしきおき、してえ・・・！」

背徳感を美酒のように味わって注ぎこめば「おふうう！」と彼もご満悦でメスイキ。

これでもかと肉欲に溺れて、翌朝は疲弊しながらも、村の人らと彼を見送り。

物欲しげな顔を向けてきたものを無視してさようなら。

さて俺も明日、都会にもどって帰りを待ちわびる彼女を愛することにしよう。

「祭りでよそ者を狂い乱す男たち・祭りで男に狂い乱されるよそ者たち」試し読み

著 者 ルルオカ

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
